広い世代の活躍の場となり地域コミュニティ活動を推進

板荷畑（いたがばた）いつくし美会（み）（栃木県鹿沼市）

○ 鹿沼市は、栃木県の中では、県央西部にあり、北部は国際観光地の日光市に、東部は県庁所在地の宇都宮市に隣接している。当団体が活動する板荷畑地域は、鹿沼市の北部に位置する中山間地域であり、地域に９つある自治会の中の一つである「板荷４区」自治会をその活動のエリアとしている。

○ 平成20年3月に、自治会を主体とし、集落全戸が参加して「板荷畑いつくし美会」を設立。アンケート調査により各世代の意見を聞取り、課題の把握、解決に取り組む。アンケートの結果はグラフ等で視覚的に取りまとめて周知し、地域の将来を自分事として考えてもらい、活動参加への自主性を高めている。

○ 耕作放棄地の解消と予防の基本的対策は、地域農業の若い世代への継承と考え、農業への関心を高めることを目的に、そば栽培、そば祭りの開催、そば店の開業につながり、無人直売所と併せて都市と農村をつなぐ事業に発展。女性や高齢者の活躍できる場になっている。また、若い世代に対する農業支援を体系化し、農業者の共助による作業が実施されている。

【地区概要】
- 取組面積：30.1ha
  （田 23.9ha、畑 6.2ha ）
- 資源量：水路 5.8km、農道 1.5km
- 主な構成員：農業者、非農業者、自治会、水利組合、消防団、長男会、婦人会など
- 交付金　約130万円（R5）

（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

地域の状況や課題

○ 板荷畑地区の高齢化率は45.8%、うち農業専従者の高齢化率は60%と高齢化が進行。

○ 農家の平均耕地面積は1.1ha、土地改良事業は未実施で、土水路が多く残っている。

○ 鳥獣害被害の発生により、山際の農地は耕作放棄地となりつつあった。

○ 将来の地区の農業の継続や環境の維持保全に対する不安を抱えていた。

小区画な農地

土水路

取組内容

○ アンケート調査により各世代の意見を聞取り、課題の把握や効果の検証を行い、PDCAサイクルで活動を検証して改善を図る。また、アンケートの結果は、グラフ等で視覚的に取りまとめて周知することで、地域の将来を考えるきっかけになるように工夫している。

○ 地域課題の解決のための検討組織として、2つの部会を設置。さらに、課題解決のための取組を組織化し、体制が確立したら独立組織化。

○ 耕作放棄地の解消・予防のために実施してきたそば栽培からそば祭りの開催、さらにはそば店の開業に至る。そば祭りやそば店は、女性や高齢者なども活躍できる場となっている。

○ 地域農業の若い世代への継承に向けて、農業支援を体系化し、共助による作業が実施される環境づくりに取り組んでいる。

板荷畑いつくし美会
- 地域営農研究部会
  集落営農（労力支援・コスト低減）
- 地域ビジネス部会
  ６次産業化（協力者拡大・拠点）

→ 独立組織化

- 獣害対策組織
- 草刈隊
- 板荷畑新規作物研究会
- 直売所
- 板荷畑いつくしみ庵

取組の効果

○ アンケート結果の共有、広い世代の連携した活動により、地域全体の絆が強化され、共同で問題解決に取り組む力が高まった。

○ こうした活動を経る中で、後継者（予定者）の意識変化が見られ、「仲間がいれば定年後の就農も考えたい」という意識の変化が芽生えている。

○ それぞれの取組を独立組織化することで、それぞれのニーズに応じた活動を実施（草刈り隊→農地以外も、直売所→情報発信、そば店→都市農村交流の拠点）。

地域の課題

ほ場整備が未実施であることや、農作物の鳥獣害被害の増大、農業者の高齢化により、徐々に耕作放棄地が拡大。将来の地区の農業の継続や環境の維持保全に対する不安。

Step1（H20.3）

板荷畑いつくし美会の設立

・平成19年3月に自治会長を中心とした発起人会を設立し、地域を対象に説明会などを実施。

・平成20年３月に地区全戸を構成員として「板荷畑いつくし美会」を設立。

アンケートの実施（H20）

・地域における課題やニーズを把握し、合意形成に取り組むため、地域住民へのアンケート調査を実施。

Step2（H20）

そば栽培の本格化

・長男会が実施していたそば栽培を耕作放棄地予防対策として活動に組み入れ、そば栽培の本格化。

Step3（H21）

獣害対策の実施

・地域の課題であった獣害対策として、防護柵を設置。

・農作物被害が激減したことにより地域資源を守るという意識が高まる。

・耕作放棄地を和牛の放牧地として利用する取組も実施。その結果、耕作放棄地が解消。

Step3（H21～）

そば祭りの開催

・耕作放棄地防止の取組として栽培したそばを活用して地域交流事業として「世界で一番小さな板荷畑そば祭り」を開催。

そば祭り

Step4（H26）

無人農産物直売所の開業

・自家用野菜の有効活用と新たな農業経営の可能性を探るため、無人直売所を設立。

・女性や高齢者の活躍の場となっている。

直売所開業

Step4（H27）

草刈隊の結成

・草刈り人員が不足しているという地域の声を受け、草刈隊を結成。

・後に高齢者支援事業とも連携して活躍。

草刈隊の結成

Step5（R2）

作業料金表の作成

・地域で農業をする仕組みづくりとして、農作業の料金表を作成。

・農外就労の後継者を支える。

アンケートの実施(H28、H30)

・活動の効果の検証、各世代の意見を把握するため、アンケートを複数回実施。

・農業後継者に対し、農業に対する質問を織り込むなど、考えるきっかけを作る。

・H30年のアンケート結果を反映し、地域資源保全管理構想を策定。

Step6（R4.1～）

そば店開業

・そば祭りから地域のそば店の整備に向けた機運が高まり、令和4年１月に地域運営のそば店「板荷畑いつくしみ庵」を開業。

「板荷畑いつくし美庵」開業

アンケートの実施（R５）

・活動に対する評価と課題、改善点を把握するため、アンケート実施。

・農業引退年齢、各農家の10年後の農業と農地保全方法などを調査し、地域営農ビジョン策定に反映。

取組のポイント

○ 地域の実態を把握するために集落全戸を対象にアンケート調査を実施。アンケート結果から、やりたい活動を把握するとともに、後継予定者の農業に対する関心や不安等も把握。【Plan】

○ 要望の高い活動優先的に実施。併せて、若い世代の農業への関心を高める活動を実施。【Do】

○ 再度アンケートを実施し、活動の効果と継続の可否を判断。【Check】

○ 必要に応じて活動を見直し、活動計画を改善。【Action】

○ アンケートを活用しながら、PDCAサイクルで活動を検証し、改善を図る。

○ 取組の体制が確立された活動は、独立組織化して活動を継続。

PDCAサイクルで活動を検証

今後の展望

○ 農地の維持管理を効率的、効果的に行い、持続可能な農業の推進と新しい農業技術の導入や環境に優しい農業方法の普及にも力を入れたい。

○ 若い世代の参加を促進し、地域全体で協力し合い、問題解決に取り組む姿勢をさらに強化し、農業を活用した地域にしていきたい。